

2022 年度 東海北陸ブロックフォーラム

「なぜつながり続けるか、いかにつながり続けるか」

～多様な主体による伴走型支援の実践現場から探る～

1 趣旨

現在、「地域共生社会」の実現に向けて、「社会的孤立」状態となっている個人・世帯への支援の必要性が高まっています。社会福祉法では、「社会的孤立」が地域福祉の推進における射程として新たに位置付けられ、包括的な支援体制の構築に向けた「重層的支援体制整備事業」が創設されるなど、制度の拡充が図られています。

そのなかで、「社会的孤立」状態にある人々への支援においては、具体的な課題解決を目指すアプローチとの支援の両輪として、つながり続けることを目的とするアプローチ、すなわち伴走型支援が重要であると提起されました。伴走型支援は、現状、学術的にも定まった概念や方法論が確立されているわけではなく、「新しい支援論の1つ」として理念や方法、仕組みを構築していく過程にあるとされています。とりわけ、一人の支援者、一つの支援機関だけでは継続的な「伴走」は難しく、多様な主体による「つながり」が求められています。

そこで本大会では、「なぜつながり続けるか、いかにつながり続けるか」をテーマとして、「つながること」の価値や伴走型支援の展開可能性を探っていく機会とします。

2 主催 日本地域福祉学会 東海北陸ブロックフォーラム 実行委員会

3 日時 2023年1月29日（日）13：00～16：30

4 会場 オンライン（Zoomを利用）

*お申し込みいただいた方々に、5日程前を目処に当日資料とあわせてURL等をご案内いたします。

5 対象 日本（東海・北陸）地域福祉学会会員、その他関心のある方

*定員 先着 100 人

6 参加費 無料

7 参加申込方法

（1）参加申込みは、以下のフォームから必要事項を入力してください。

<https://forms.gle/wvWKiQ4knsQVyw5R8>

（2）締切日 2023年1月15日（日）

8 プログラム内容

スケジュール	内容
13:00～13:10	挨拶・趣旨説明
13:10～14:10	<p>【講演】</p> <p>テーマ：つながり続けることの政策的・実践的な評価の視点 ～地域づくりの観点からの「つながり」の再考～</p> <p>講師：日本福祉大学 国際福祉開発学部 吉村 輝彦氏</p>
14:10～14:20	休憩
14:20～16:20	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>「なぜつながり続けるか、いかにつながり続けるか」 ～多様な主体による伴走型支援の現場から探る～</p> <p>さまざまな主体の地域福祉実践者が、これまでどのような想いや手法でつながり続けてきたのか、そして「地域共生社会」をどう描くのか、実践現場から「つながりの価値」や伴走型支援の展開可能性を探っていきます。</p> <p>●シンポジスト</p> <p>東浦町社会福祉協議会 事務局長 高見 靖雄 氏</p> <p>谷汲中央診療所 所長 西脇 健太郎 氏</p> <p>一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事 渡辺 ゆりか 氏</p> <p>●コーディネーター</p> <p>日本福祉大学 国際福祉開発学部 吉村 輝彦 氏</p> <p>●コメンテーター</p> <p>中部学院大学 人間福祉学部 佐甲 学 氏</p>
16:20～16:30	閉会・事務連絡

9 事務局・お問合せ先

日本地域福祉学会 東海北陸部会 フォーラム事務局

部会担当：加藤・松井 E-mail：toukaihokuriku.taikai2022@gmail.com